

烏山学舎 世田谷区立烏山北小学校

校長 河野 芳浩 様

烏山学舎 世田谷区立烏山北小学校

学校関係者評価委員会

委員長 高谷 あゆ子

令和7年度 学校関係者評価報告書

今年度の学校関係者評価アンケートの結果をご報告いたします。

保護者の皆さまに於かれましては、お忙しい中約半数の皆さまからのご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。本校の学校経営方針のひとつ「みんなが主役、みんなの学校、から北小」の実現に向け、先生方はじめ保護者、地域の皆さまが一丸となって努力していることが表れた結果になったと思います。評価結果の詳細を見ながら、今後の教育活動がより良いものになるよう精査していきたいと思えます。

調査結果の分析と考察

1. 『学校教育重点目標』に関する項目について

みとめあい 自分を大切にするようにお互いのよさを認め合うことができる資質・能力を醸成する

対象	項目	目標値	本年度（昨年度）
児	目標をもち、その実現に向けて努力している	80%	82.5% (79.0)
児	学校行事は達成感がある	80%	80.8% (88.8)
保	本校の教員は、子どもに目標を持たせその実現の為に支援している	60%	58.8% (54.0)

※児 = 5・6年生児童、保 = 保護者

「目標をもち、その実現に向けて努力している」の項目は、今年度は目標値が80%に引き上げられましたが、目標を上回る82.5%という結果となりました。年々この数値が上がっているのは、日頃のご家庭でのお子さんとの接し方や学校教育の中での活動が大きく関わっていると思えます。学校教育では、引き続き日々の学習目標や生活目標を大切に、子どもたちの将来に目を向けて行ってほしいと思えます。

また、学校行事に関しては、今年度は運動会が平日開催となったことや展覧会と学習発表会が交互に行われることでの印象の違いはあるものの、目標値を超える高評価となっており、学校行事が児童にとっても保護者にとっても充実したものであったことが伺えます。

まなびあい カリキュラム・マネジメントや ICT 活用・せたがや探究的な学びの充実により、

「主体的・対話的で深い学び」を推進する

対象	項目	目標値	本年度（昨年度）
児	先生は、児童の意欲を大切にしている	80%	87.5% (87.7)
児	授業では、考えたことを話し合ったりし合ったりする機会がある	90%	92.7% (95.4)
保	本校は、子どもが考えることや課題を解決することを大切にした授業を行っている	70%	79.0% (72.2)

『まなびあい』に関する項目は、本年度も目標値を大きく上回っています。

校長先生は、学校経営計画の中で「子どもにとって楽しく分かる授業や計画的・創造的な特別活動の実施を通して、子どもが主体的に学ぼうとする意欲の向上を図る」と示しています。それを受け、先生方は子ども同士の意見交換を大事にし、振り返りを行うことで理解を深めるような授業を展開しています。また、楽しさを追求することで子どもたちが発言しやすい環境を整えるなどの工夫をし、子どもたちが主体的に学べるよう意識的に取り組んでいることが表れていると感じます。

そだてあい 教師と子どもの信頼関係を基盤にした「支持的風土」のある集団づくりや

学校・家庭・地域が連携した「共育」により、学校力を向上させる

対象	項目	目標値	本年度（昨年度）
児	学校生活は楽しい	85%	89.3% (87.2)
児	先生に注意されたことは、理解できる	90%	91.5% (94.3)
保	学校生活は子どもにとって楽しい	85%	89.1% (83.7)

児童の「先生に注意されたことは、理解できる」は、今年度も90%を超え教師と児童の信頼関係がしっかりと構築されていることが伺えます。学校が楽しいと思えていることは、とても良い傾向です。子どもたちが主体となり夢を持てるような授業や行事が、結果的に子どもたちの「楽しい」につながっているのだと思います。今後とも、教師と子どもの信頼関係を基盤にした「支持的風土」のある集団づくりを大切にしていってほしいと思います。

2. アンケートの回答分布

I. 児童の顕著な結果から

◎児童の肯定的回答が多かった項目（「とても思う」、「思う」の割合）

項目	%
先生たちは、ていねいに指導してくれる	94.3
授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある	92.7
先生に注意されたことは、理解できる	91.5
先生は、課題(めあて)について自分で考えたり友だちと考えたりする時間を授業の中で取っている	91.0
先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	90.4

児童の肯定的回答には、授業内容に関する項目が多く上がっています。今年度も、音楽・スポーツ・園芸など多岐に渡ったゲストティーチャーを招き授業を行っていました。実際に身体を動かして五感を使う体験や、専門家の生の声を聞くような活動は、子どもたちの心に残りやすいので、今後も力を入れていただきたいと思ひます。

また、「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の項目は、安定してとても高い評価になっています。実際、様々な活動や授業でタブレットが活用され、子どもたちもノートとタブレットを使い分け、得意な方を選ぶこともできるなど選択の幅も広がっています。タブレットは効率がよく、これからの時代に必要不可欠である反面、文字を書く機会が減る、保護者にとって子どもの学習習得度や提出物などの自己管理ができていないか見えにくいという課題もあります。保護者の目が行き届きづらいのは、高学年にとってはむしろ自立のために良い面もありますが、低学年にとってはまだまだ注意が必要です。それらのバランスを取りながらタブレットを上手に活用して欲しいと思ひます。

◎児童の否定的回答が多かった項目（「あまり思わない」、「思わない」の割合）

項目	%
学び舎の中学校に行ったり、中学生がきたりする機会がある	33.4
区立中学校に関する情報が提供されている	20.4

部活動体験、運動会ボランティア、から北寺子屋ボランティアなど中学生との交流は、例年通り行われています。また、近隣の保育園・幼稚園・小学校・中学校の保育士や先生が集まる鳥山学舎合同研修会が年3回行われ、授業参観や分科会を通して先生同士の交流も深めています。その活動により、小1プロブレムへの対応や、中学校への移行がよりスムーズになることに繋がっていると思ひます。このような長期的な視点を大事にし、できるだけ多くの目で子どもたちの教育活動を支えて欲しいと思ひます。

II. 保護者の顕著な結果から

◎保護者の肯定的回答が多かった項目（「とても思う」、「思う」の割合）

項目	%
本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもたちに安全に関する指導をしている	94.4
私は自分の子どもと学校生活について話をよくしている	93.0
本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる	92.3
学校行事は子どもにとって楽しい	91.2

「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもたちに安全に関する指導をしている」の数値が高いことから、日頃から防災・防犯意識が高く、安心・安全な学校づくりが実現できていると言えます。また、「私は自分の子どもと学校生活について話をよくしている」の数値が高いのはとても良いことなので、引き続きお子さんとの会話を大切にしたいと思ひます。

「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」も90%を超えています。1月の学校公開では、体験的な授業を通して児童が積極的に学んでいる姿や、「交換授業」として担任が入れ替わって授業をしている様子などが見られました。学年によって「交換授業」や「教科担任制」を取り入れることで、教員は専門性を高めることや多角的な目で児童を捉えることができ、また子どもたちにとっては様々なタイプの先生に出会うことで安心感につながっていると感じられます。このように学年全体で子どもたちを見ている様子が、学校公開や保護者会により保護者にも伝えられていると思ひます。

◎保護者の否定的回答が多かった項目（「あまり思わない」、「思わない」の割合）

項目	%
「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている	38.4
子どもは、家庭で自主的に学習をしている	36.3
私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している	33.9

社会の変化に伴い、保護者の働き方や学校との関わり方が少しずつ変化している中でも、子どもたちを大切に思う気持ちや、共に育てる姿勢はどの時代も変わらないものだなと感じます。「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している」に対する否定的な回答の中には、もっと関わりたいという気持ちも含まれていると思うので、自ら情報を取りにいく工夫をするなど、個々のライフスタイルを大事にしながらも学校に関わることを楽しんでいただけると良いと思います。

Ⅲ. 地域の顕著な結果から

◎地域の肯定的回答が多かった項目（「とても思う」、「思う」の割合）

項目	%
学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる	93.3
学校は安心・安全な学校づくりをすすめている	90.0
学校行事の内容は充実している	86.7

今年度は、運動会が雨天順延の為平日開催になり、地域の方が学校行事を見る大きな機会が減ってしまいました。そんな中でも、地域の皆さまが日頃より関心を持って見守ってくださっていることが伺える結果となりました。

また、から北寺子屋・昔遊び、お寺巡り、園芸やひなまつり行事等、様々な形で地域の方々に関わっていただきました。今後も、地域の方々に学校だより（青がし）やホームページ、広報誌、学校運営委員会だより等を通して学校の様子を知っていただくと共に、このような地域の方々との関係を大切にしていきたいと思っております。

〈おわりに〉

今年度の変化のひとつに、通知表が年3回から年2回に変更となったことがあります。今のところ大きな混乱は報告されていません。通知表が年2回になったことにより先生方の事務時間が縮小され、その分子どもたちと向き合う時間が確保でき、日常の授業や学校生活がより充実したものになっていれば幸いです。毎年行われている教員の『学校経営計画に関する自己評価』では、成果の度合いの数値が昨年度よりも上がっており、その手応えを感じます。しかし、学校運営は先生方の努力だけでなく保護者や地域との連携が不可欠です。今後とも子どもたちの健全育成と更なる学校改善のため、学校・保護者・地域が一体となった学校運営を目指してほしいと思っております。保護者や地域の皆さまに於かれましても、引き続き本校の教育活動へのご理解・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和7年度 学校関係者評価委員

高谷 あゆ子、阿部 純子、今川 陽子、
庄司 貴子、門脇 望